

令和元年度 全学共通科目に関する調査（学生対象）

調査概要 全学共通科目のうち，“四国大学スタンダード”の修得に向けた導入授業科目である「社会人基礎力入門」，「初年次ゼミⅠ」，「初年次ゼミ」，「自己と社会・地域論」，「初年次ゼミⅡ」の5科目について，学生を対象としたアンケート調査を実施した。調査では，全15回の授業内容について，4段階の自己評価で達成度を測るとともに，講義前後の変化について2択で測り，教育前後の違いについても明らかにした。

調査時期 前期調査：2019年7月（15回目授業時）
後期調査：2020年1月（15回目授業時）

調査対象 大学1年生：「社会人基礎力入門」「初年次ゼミⅠ」「自己と社会・地域論」「初年次ゼミⅡ」
短期大学部1年生：「社会人基礎力入門」「初年次ゼミ」「自己と社会・地域論」

調査内容 科目ごとにシラバスの到達目標に基づく15項目の設問を設定し，「できていない」～「とてもよくできている」までの4段階で自己評価を求めた。また，各項目について講義前後で変化したかどうか把握するため，「講義前から変わらない」，「講義前から変わった」のどちらかで選択回答を求めた。

「社会人基礎力入門」

- ①基礎学習力や社会人マナーについて（11項目）
- ②情報リテラシーについて（4項目）

「初年次ゼミⅠ」

- ①大学生活の心構えについて（4項目）
- ②ノートテイキングやリーディングについて（3項目）
- ③情報収集について（2項目）
- ④レポート小論文などの文章技法について（6項目）

「初年次ゼミ」

- ①大学生活の心構えについて（4項目）
- ②ノートテイキングやリーディングについて（2項目）
- ③情報収集について（2項目）
- ④レポート小論文などの文章技法について（3項目）
- ⑤プレゼンテーションの基礎技法について（4項目）

「自己と社会・地域論」

- ①あなた自身について（7項目）
- ②地域社会について（8項目）

「初年次ゼミⅡ」

- ①プレゼンテーションの基礎技法について（8項目）
- ②ディベートについて（3項目）
- ③ディスカッションについて（4項目）

調査結果 各科目のアンケート回答者数は下記の通りであった。

科目名	男	女	不明	合計
社会人基礎力入門	152	363	11	526
初年次ゼミⅠ	147	349	1	497
初年次ゼミ	38	119	1	158
自己と社会・地域論	195	483	15	693
初年次ゼミⅡ	157	346	2	505

結果の概要

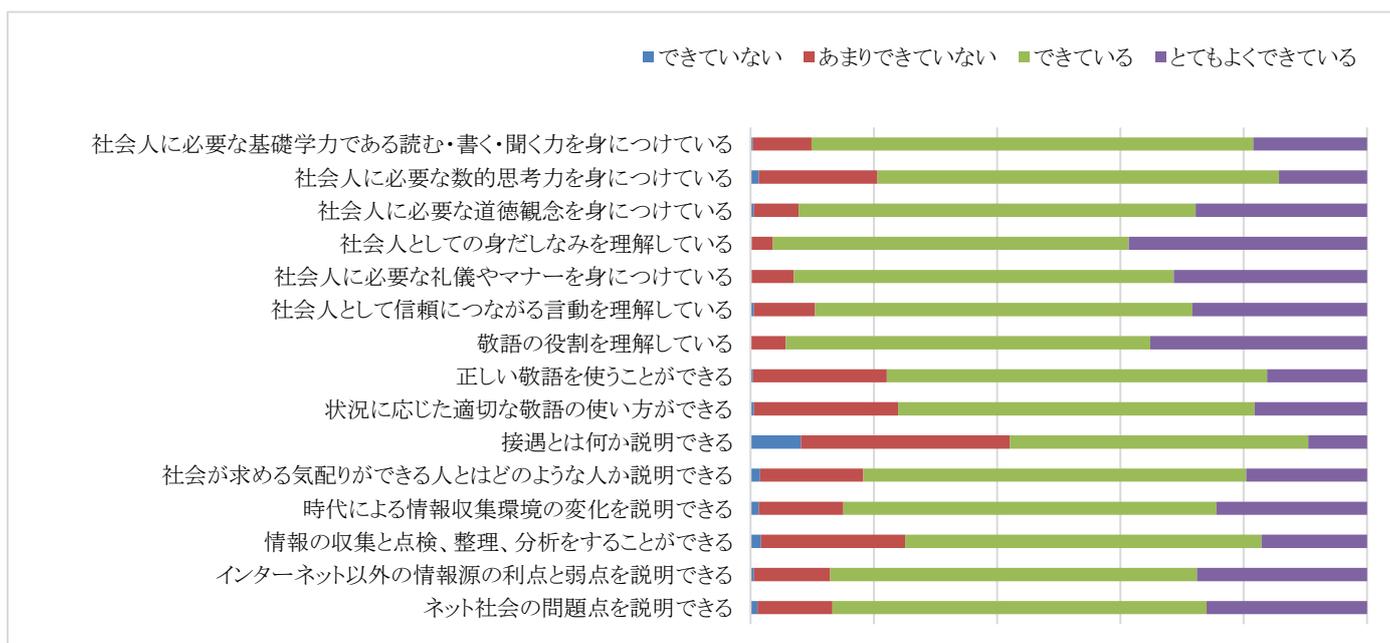
社会人基礎力入門

前半の「基礎学習力や社会人マナーについて」では、接遇に関しては半数以上、数的思考力や敬語の使い方に関しては 8 割近く、それ以外の項目では 9 割以上が肯定的回答であった。後半の「情報リテラシーについて」では、〈情報の収集と点検、整理、分析をすることができる〉が他の項目に比べて「あまりできていない」の割合が高かったが、それ以外の項目では肯定的回答が 8 割以上であった。全体的に、他の科目よりも習得の実感が得られていると考えられた。

表1. 社会人基礎力入門の修得度の自己評価と授業前後の変化

	修得度の評価								授業前後の変化			
	できていない		あまりできていない		できている		とてもよくできている		変わらない		変わった	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
社会人に必要な基礎学力である読む・書く・聞く力を身につけている	2	0%	50	10%	376	72%	97	18%	189	36%	332	64%
社会人に必要な数的思考力を身につけている	7	1%	101	19%	342	65%	75	14%	252	48%	268	52%
社会人に必要な道德観念を身につけている	3	1%	38	7%	338	64%	146	28%	221	42%	300	58%
社会人としての身だしなみを理解している	1	0%	18	3%	303	58%	203	39%	189	36%	330	64%
社会人に必要な礼儀やマナーを身につけている	1	0%	36	7%	324	62%	165	31%	141	27%	379	73%
社会人として信頼につながる言動を理解している	3	1%	52	10%	322	61%	149	28%	169	33%	351	68%
敬語の役割を理解している	0	0%	30	6%	311	59%	185	35%	151	29%	368	71%
正しい敬語を使うことができる	2	0%	114	22%	324	62%	85	16%	161	31%	357	69%
状況に応じた適切な敬語の使い方ができる	3	1%	123	23%	304	58%	96	18%	173	33%	345	67%
接遇とは何か説明できる	43	8%	178	34%	255	48%	50	10%	199	38%	320	62%
社会が求める気配りができる人とはどのような人か説明できる	8	2%	88	17%	326	62%	103	20%	171	33%	346	67%
時代による情報収集環境の変化を説明できる	7	1%	72	14%	317	60%	128	24%	160	31%	357	69%
情報の収集と点検、整理、分析をすることができる	9	2%	123	23%	304	58%	90	17%	194	38%	323	62%
インターネット以外の情報源の利点と弱点を説明できる	3	1%	65	12%	313	60%	145	28%	163	31%	357	69%
ネット社会の問題点を説明できる	6	1%	64	12%	319	61%	137	26%	158	30%	361	70%

図 1. 社会人基礎力入門の修得度の自己評価



初年次ゼミ I

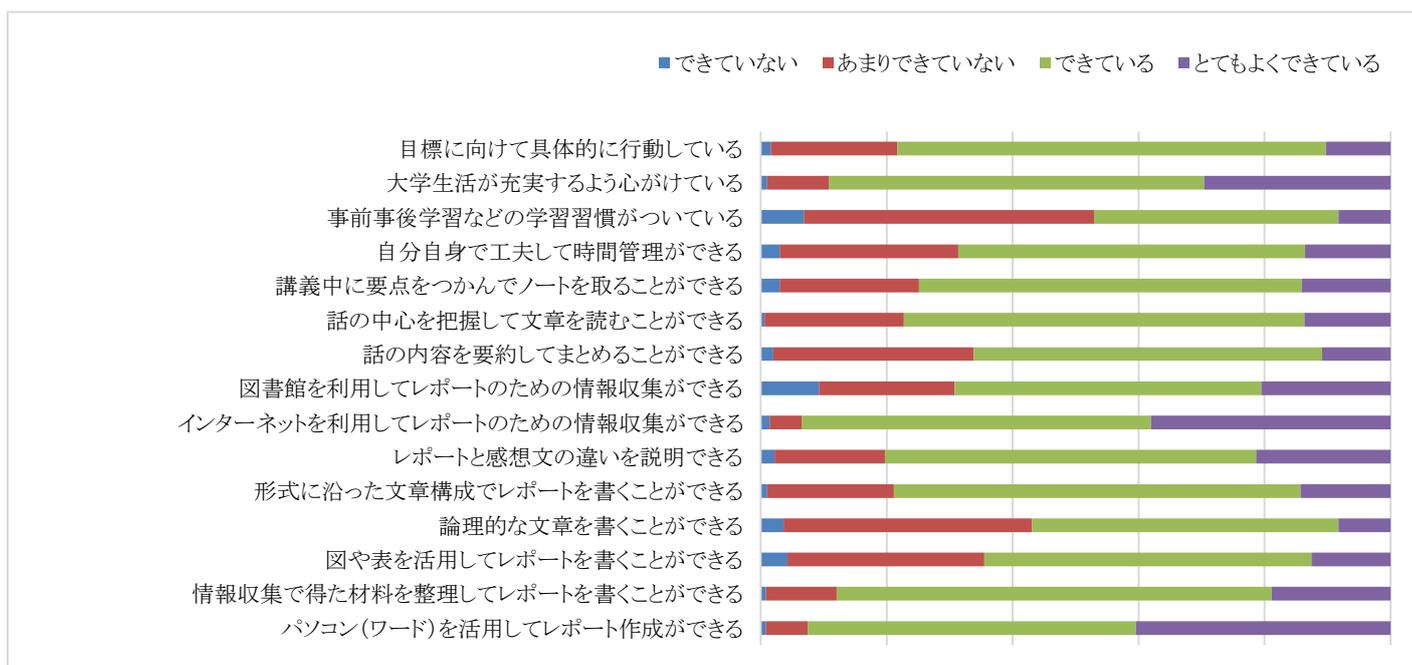
〈インターネットを利用してレポートのための情報収集ができる〉、〈パソコン（ワード）を活用してレポート作成ができる〉では「できている」「とてもよくできている」が9割以上を占め、パソコンの基本技能の習得はできている学生が多いと考えられた。

〈事前事後学習などの学習習慣がついている〉では「できていない」「あまりできていない」という否定的な回答が約半数を占めていたが、昨年度と比べると肯定的回答の割合が大幅に高くなっていた（H30：33%；R1：47%）。

表2. 初年次ゼミIの修得度の自己評価と授業前後の変化

	修得度の評価								授業前後の変化			
	できていない		あまりできていない		できている		とてもよくできている		変わらない		変わった	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
目標に向けて具体的に行動している	8	2%	100	20%	338	68%	51	10%	251	51%	242	49%
大学生活が充実するよう心がけている	5	1%	49	10%	295	59%	147	30%	257	52%	235	48%
事前事後学習などの学習習慣がついている	34	7%	229	46%	193	39%	41	8%	324	66%	167	34%
自分自身で工夫して時間管理ができる	15	3%	140	28%	272	55%	67	14%	296	61%	190	39%
講義中に要点をつかんでノートを取ることができる	15	3%	110	22%	302	61%	70	14%	223	45%	270	55%
話の中心を把握して文章を読むことができる	3	1%	110	22%	316	64%	68	14%	251	51%	242	49%
話の内容を要約してまとめることができる	10	2%	158	32%	275	55%	54	11%	252	51%	241	49%
図書館を利用してレポートのための情報収集ができる	46	9%	107	22%	242	49%	102	21%	205	42%	287	58%
インターネットを利用してレポートのための情報収集ができる	7	1%	25	5%	274	55%	188	38%	166	34%	326	66%
レポートと感想文の違いを説明できる	11	2%	87	18%	293	59%	106	21%	149	30%	344	70%
形式に沿った文章構成でレポートを書くことができる	5	1%	100	20%	320	65%	71	14%	147	30%	345	70%
論理的な文章を書くことができる	18	4%	195	39%	241	49%	41	8%	242	49%	249	51%
図や表を活用してレポートを書くことができる	21	4%	154	31%	256	52%	62	13%	213	43%	277	57%
情報収集で得た材料を整理してレポートを書くことができる	4	1%	56	11%	343	69%	94	19%	135	27%	356	73%
パソコン（ワード）を活用してレポート作成ができる	4	1%	33	7%	259	52%	201	40%	139	28%	353	72%

図2. 初年次ゼミ I の修得度の自己評価



初年次ゼミ

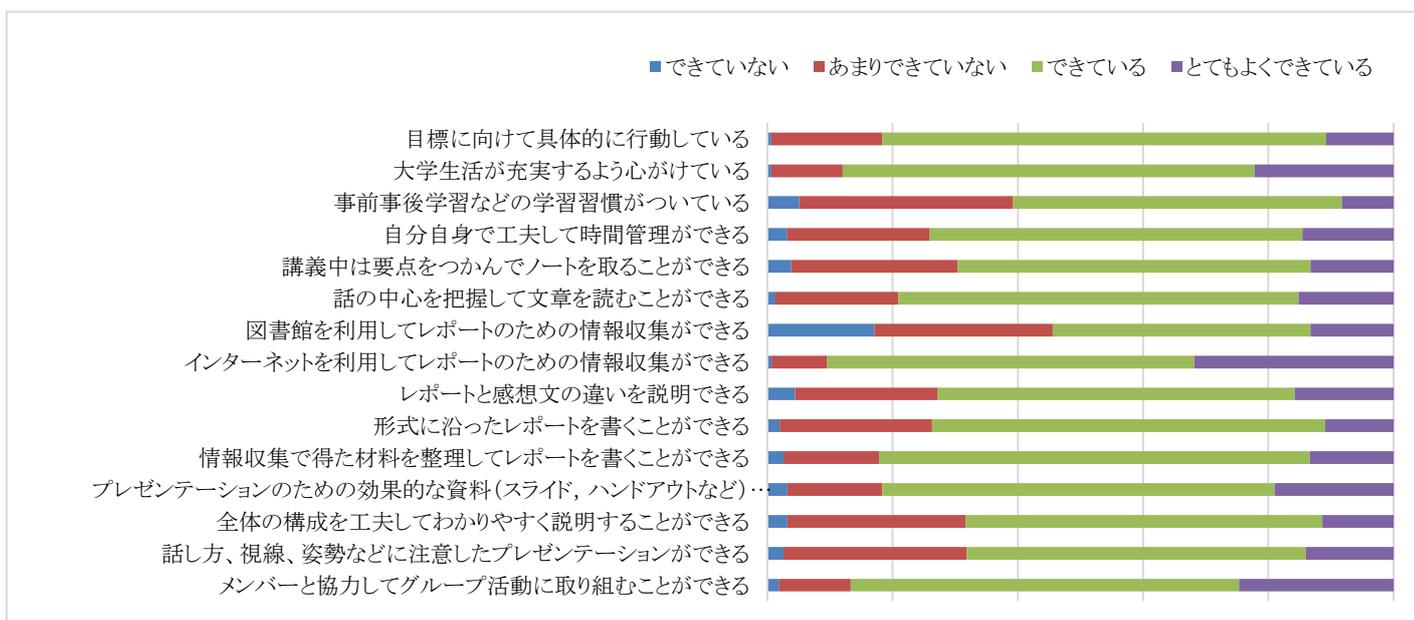
15 項目全てで、肯定的回答（「できている」、「とてもよくできている」）が半数以上を占めていた。また、肯定的回答の割合は昨年度と比べてすべての項目で高くなっていた。

〈図書館を利用してレポートのための情報収集ができる〉は他の項目と比べて否定的回答の割合が高かった。図書探し方について講義内容として扱っているものの、レポート作成の段階ではパソコン等を使用するため、インターネットを中心に情報収集している可能性が高い。レポート作成の中で実際に図書館を利用するなど、講義順序の変更が必要かもしれない。

表3. 初年次ゼミの修得度の自己評価と授業前後の変化

	修得度の評価								授業前後の変化			
	できていない		あまりできていない		できている		とてもよくできている		変わらない		変わった	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
目標に向けて具体的に行動している	1	1%	28	18%	112	71%	17	11%	63	40%	94	60%
大学生活が充実するよう心がけている	1	1%	18	11%	104	66%	35	22%	56	36%	101	64%
事前事後学習などの学習習慣がついている	8	5%	54	34%	83	53%	13	8%	75	48%	82	52%
自分自身で工夫して時間管理ができる	5	3%	36	23%	94	59%	23	15%	63	40%	93	60%
講義中は要点をつかんでノートを取ることができる	6	4%	42	27%	89	56%	21	13%	62	39%	95	61%
話の中心を把握して文章を読むことができる	2	1%	31	20%	101	64%	24	15%	69	44%	88	56%
図書館を利用してレポートのための情報収集ができる	27	17%	45	28%	65	41%	21	13%	70	45%	86	55%
インターネットを利用してレポートのための情報収集ができる	1	1%	14	9%	92	59%	50	32%	52	33%	104	67%
レポートと感想文の違いを説明できる	7	4%	36	23%	90	57%	25	16%	51	32%	106	68%
形式に沿ったレポートを書くことができる	3	2%	38	24%	98	63%	17	11%	47	30%	109	70%
情報収集で得た材料を整理してレポートを書くことができる	4	3%	24	15%	108	69%	21	13%	53	34%	103	66%
プレゼンテーションのための効果的な資料(スライド、ハンドアウトなど)を作成できる	5	3%	24	15%	99	63%	30	19%	59	38%	98	62%
全体の構成を工夫してわかりやすく説明することができる	5	3%	45	28%	90	57%	18	11%	70	45%	87	55%
話し方、視線、姿勢などに注意したプレゼンテーションができる	4	3%	46	29%	85	54%	22	14%	71	45%	86	55%
メンバーと協力してグループ活動に取り組むことができる	3	2%	18	11%	98	62%	39	25%	58	37%	99	63%

図 3. 初年次ゼミの修得度の自己評価



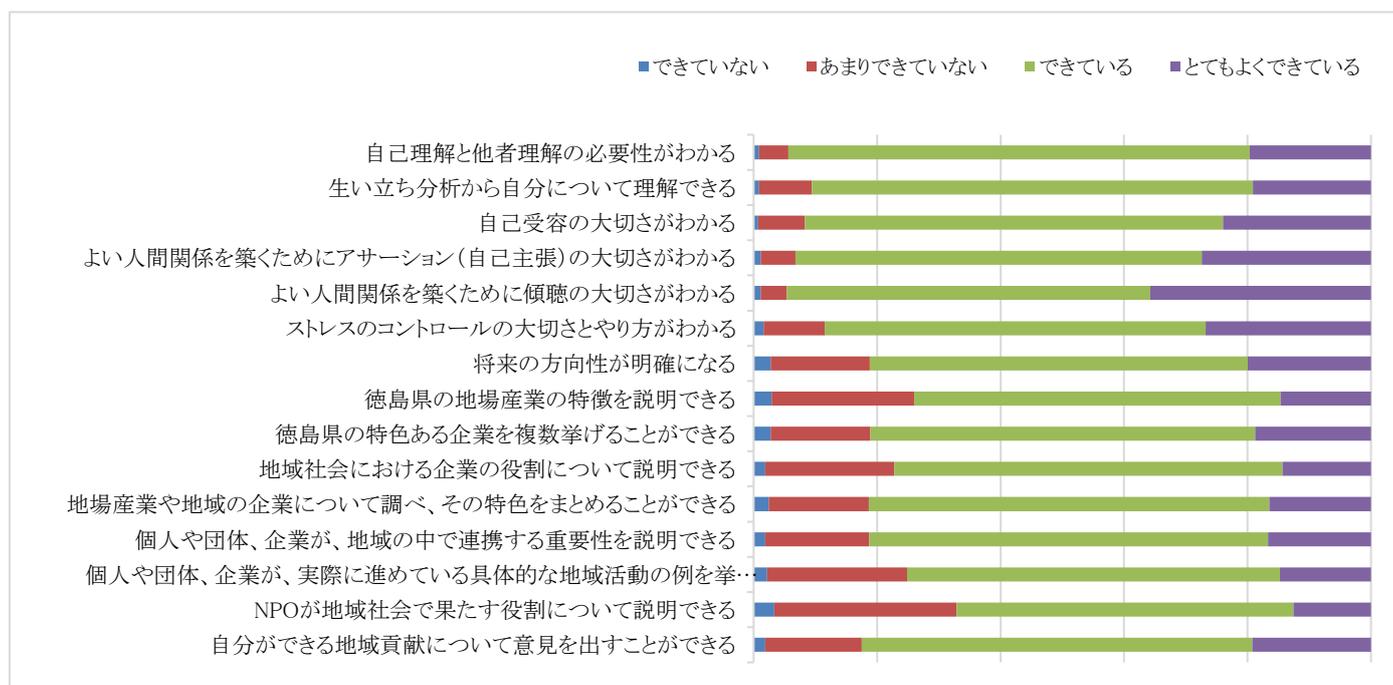
自己と社会・地域論

昨年度の調査結果と同様に、前半の「自己」に関する項目では肯定的回答の割合が極めて高かった。後半の「地域社会」に関する項目は前半に比べるとその割合が若干低くなる傾向が見られたものの、8割程度が肯定的回答という結果が得られた。

表4. 自己と社会・地域論の修得度の自己評価と授業前後の変化

	修得度の評価								授業前後の変化			
	できていない		あまりできていない		できている		とてもよくできている		変わらない		変わった	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
自己理解と他者理解の必要性がわかる	6	1%	33	5%	517	75%	136	20%	241	35%	441	65%
生い立ち分析から自分について理解できる	6	1%	59	9%	493	71%	132	19%	240	35%	441	65%
自己受容の大切さがわかる	5	1%	52	8%	467	68%	165	24%	234	34%	447	66%
よい人間関係を築くためにアサーション(自己主張)の大切さがわかる	8	1%	39	6%	456	66%	190	27%	224	33%	454	67%
よい人間関係を築くために傾聴の大切さがわかる	8	1%	29	4%	407	59%	247	36%	239	35%	440	65%
ストレスのコントロールの大切さとやり方がわかる	11	2%	68	10%	424	62%	184	27%	255	38%	425	63%
将来の方向性が明確になる	19	3%	111	16%	423	61%	138	20%	302	45%	374	55%
徳島県の地場産業の特徴を説明できる	20	3%	159	23%	409	59%	101	15%	236	35%	446	65%
徳島県の特色ある企業を複数挙げることができる	19	3%	112	16%	432	62%	130	19%	183	27%	496	73%
地域社会における企業の役割について説明できる	13	2%	144	21%	434	63%	99	14%	205	30%	474	70%
地場産業や地域の企業について調べ、その特色をまとめることができる	17	2%	112	16%	449	65%	114	16%	218	32%	461	68%
個人や団体、企業が、地域の中で連携する重要性を説明できる	13	2%	116	17%	446	65%	115	17%	207	31%	469	69%
個人や団体、企業が、実際に進めている具体的な地域活動の例を挙げることができる	15	2%	157	23%	418	60%	102	15%	246	36%	431	64%
NPOが地域社会で果たす役割について説明できる	23	3%	205	30%	378	55%	87	13%	290	43%	390	57%
自分ができる地域貢献について意見を出すことができる	13	2%	108	16%	437	63%	133	19%	253	37%	427	63%

図4. 自己と社会・地域論の修得度の自己評価



初年次ゼミ II

〈説得力を持った発表ができるよう意識している〉、〈態度、言葉、動作などを意識した発表ができる〉という発表の実践に関する項目や、〈ディベートのテーマについて論理的に考え、意見を組み立てることができる〉〈ディベートで自分の役割を果たすことができる〉といったディベートの実践に関する項目は、他の項目に比べて肯定的回答の割合が低い傾向がみられた。本科目は、大学生として必要なスキルを身につけるための導入科目であるため、こうした技能が大学生活を通じてどのように変化するかを検証していく必要があると考えられる。

表5. 初年次ゼミIIの修得度の自己評価と授業前後の変化

	修得度の評価								授業前後の変化			
	できていない		あまりできていない		できている		とてもよくできている		変わらない		変わった	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
プレゼンテーションの基本的なスキルを説明できる	6	1%	95	19%	365	72%	39	8%	111	22%	388	78%
プレゼンテーションの準備のための情報収集のスキルを身につけている	5	1%	55	11%	361	72%	83	16%	140	28%	358	72%
プレゼンテーションの構成を考慮することができる	5	1%	68	13%	333	66%	99	20%	122	24%	378	76%
パワーポイントを使ってスライドを作成することができる	6	1%	42	8%	278	55%	179	35%	185	37%	315	63%
目的に応じて図や表、画像などを活用し、視覚的にわかりやすいスライドを作成することができる	7	1%	74	15%	302	60%	121	24%	173	35%	326	65%
説得力を持った発表ができるよう意識している	8	2%	146	29%	290	57%	61	12%	174	35%	326	65%
態度、言葉、動作などを意識した発表ができる	11	2%	130	26%	281	56%	81	16%	225	45%	273	55%
人が発表しているときは、協力的に聞くことができる	0	0%	19	4%	249	49%	236	47%	261	52%	239	48%
ディベートの基本的なルールを説明できる	19	4%	121	24%	301	60%	63	13%	142	28%	357	72%
ディベートで自分の役割を果たすことができる	12	2%	144	29%	282	56%	67	13%	176	35%	324	65%
ディベートのテーマについて論理的に考え、意見を組み立てることができる	15	3%	160	32%	278	55%	51	10%	176	35%	323	65%
ディスカッションの基本的なルールを説明できる	18	4%	116	23%	309	61%	61	12%	155	31%	345	69%
ディスカッションで意見を述べるることができる	13	3%	100	20%	303	60%	87	17%	182	37%	316	63%
グループの中で共通理解が得られるように話し合うことができる	8	2%	72	14%	314	62%	110	22%	172	35%	325	65%
グループで話し合い、課題の解決策を考慮することができる	8	2%	68	13%	310	62%	118	23%	165	33%	332	67%

図5. 初年次ゼミ II の修得度の自己評価

